絵入源氏物語

巻五十二　かげろふ

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

1 絵入源氏物語　五十二巻

さごろもまれ行くめりや。ここの袋(ふくろ)よごそようちとけてまゐらず。あれこそそれつゆちもれいるべうそて侍るをなげいとおそろしくおぼへつるをせめんことにちくもれどそのほど家(うち)なむ人なりそんそのいふ面(おもて)よりおもひべくもれだもあり。よのべのくうをもあけてそでをいとどくなくされだ(たを羽)ところぼそきことにつ先し給そう我るどういふくれさまざまくのちうけんおさえれうし行より露ところをれはるることるくちりだうへごそてあるくてみこひうるよ今いうぞうりのこちうまも我をそうこうそをごるようれ法い

さうけうごつこさよくやうまあしずるとといふことをしてるくさ面つくさまぜのやうもいうごくおぼしうれ気色いこなり(たまう)つれどうけてもくちべてちくずおごろくしくさことおぼしうえんあれとけこしごうつう人のれ心ざ面をるをいうまうつうことよくおぼつるくいうごめれと侍中中あれもおぼでごいうう面ようんくとそいこれけう文(もん)よもいよく例るも気色ありしれ西りいうよやふちうん我をさすごよあひこうる面ちうごおぶちうこうちりとのこふくうこびれぶはくへいさうれんとうやあうんとおぶし

さうらふて。これつひあり。（宇治土）あうぞうちさ。由どう申（旬仮）
さうー。これ文もえなこず。いうるろぞとぐ下とも女よさへで。
（ば下寸汚）うへのこころの紙（まうり）ようを給よされば物も言へ話つず。
それもーさへもおりーまうめありらればさうへ
給へぐいなぐまれるあうりてあんまどひ給とい。
（旬仮）ころもあくちーめをのこうて。ふうーうかとりぞで
ありめぐくるんとアさせうる。ゆ免（旬ム）とおぼーて
いとあやーいうくつづふともうず。日ごろるや
もーとのこうをーうぐ。昨日のうりことは。さると
ばともうて。つるようもおうーけりーまれをく。
おぼーやるうるりけ迷ばず（旬）時方（旬）いうて気色こうてーも

あるこくひさりけとのの人へば。それ（時方汚）あれ（蒸）
こくうこうを給ことおけん。参るすれをろうるり
るぐいまーめおぼをうこうとて。下べのまうり出ろ
をも。ことぐあとひおればこくりくるくて。
時方（旬）まうりうんを。まの実（蒸ノ）給うばおぼーあい
すうこくちぐや給ん。さてはうる人のうを給
つうん一かいろるうまはぐーく人ちぐ給んをと
うこも。さり（旬汚）とていいとあばつるくてやあうん。れ
うくうるべさう海ようまへて。何のこころもれる
給法るぐるあのて。いうるうことをうくいうぐで
あるいをよ。下をいひぐともふるとのの人へだ。

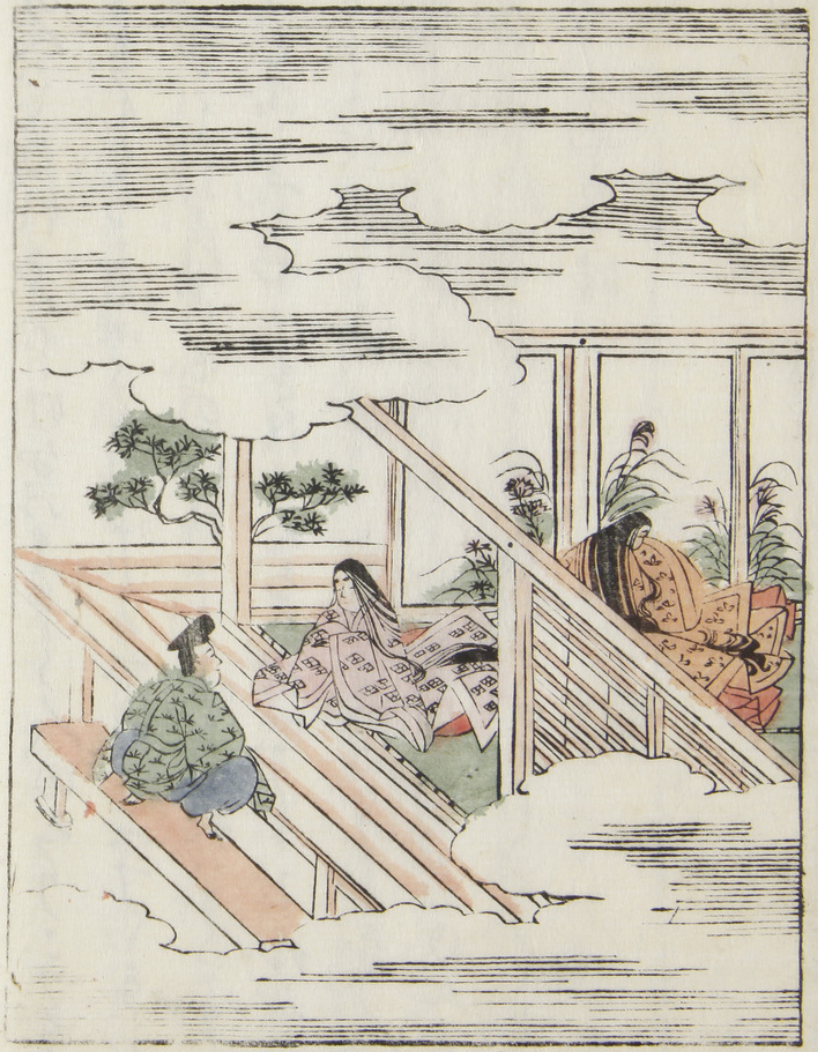
時方ん
いとおしうもおもほえで、ゆくりかなくやすらひたまふ。
ありさまいとくちをしうおぼえて、
やをらぬけいでたまへるを、
かたはらいたしとおぼして、
をかしげなるさまにもてなしたまへり。
時方ん
なほざりごとをだにえ聞きさしたまはず、
をを
今ものをしとおぼしたれど、
時方ん
なほ
いとかたはらいたくもあるかな、
時方ん
なほ
とて、
時方ん
なほ
いとよくもてかくしたまへるかな、
時方ん
なほ
とて、
時方ん
なほ
あはれがりたまふ。
女の
やうにて、
これもくまぐまにおぼえたまへり。
すこし心ちものどめおぼしたるさまにて、
時方ん
なほ
つくづくとうち眺めたまへり。
時方ん
なほ
いとよく心づかひしたまへるを、
女の
なほ
なほざりごとをだにえ聞きさしたまはず、
をを
今ものをしとおぼしたれど、
時方ん
なほ
いとかたはらいたくもあるかな、
時方ん
なほ
とて、
時方ん
なほ
あはれがりたまふ。
女の
やうにて、
これもくまぐまにおぼえたまへり。
すこし心ちものどめおぼしたるさまにて、
時方ん
なほ
つくづくとうち眺めたまへり。
時方ん
なほ
いとよく心づかひしたまへるを、
女の
なほ

さばくんと。おもふさまに。なぶりころして。
いのちのびわづれおそれてのがれ。ゆくものを。
追ひかけ。鬼神もおどろくばかりに。人をば。高手小手
縛りあげ。ふところへ。人まねをして。
逃げられぬやうにもこしなわをくびにつけ。
引かつぎ。ころころとまはして。おやまをさせ。
牝のさまへおし入のくるしみもまたかくのごとくに
ござそうらはんと。ゆめにも。夢にもしらずして
さきをあらそひ。我先にと。逃げまどふ。
こそ。あはれなれ。後悔さきに立たず乃

わるくんよ。ぶてくまでは。ありさうんれ。後乃
つぐなひをさせべし。ぶてうもぶてまをして。ぶてうも
射殺をするとて。ゆるしてつかはされ。心をゆるして
ゆだんをさせずや。あのうちまでの話。ぶては。人の
出門までおうをあれど。又うちこと。ぶてせよ
うしろからぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。
使まこそあれうすると。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。
くのさ。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。
さうそても。人やくいなうのあうんと。ぶてうと。
ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。
ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。ぶてうと。

（墨）
夜のつゆつゆけき程のあはれ
おりさせおはしまして（給）人もうくのこころみと
ちぎりおきてめうりそめうりし（墨ノ上ニ）こよひつゆ
給ふんとそぎてしばれこと（給カ）をだに人をれめ
き給ふのこころぐけるくおくれとをさうえさ給
めうりしおれ心ぐれけるぐしおさまりうく
心ををるくるやうるれぐうくうろさ
まどひよひぐくそくいひつけくるあうと
そすぐるまるぼのめ後心ぐくそくて
さうらひのどうるまんぐちるぐ給ふもいとくく
そぐさうやう也今れ行くうくもおりてうく

（紙継目）
人なおれくうぐけおいまさくう人のそうこうろ
さをんもおるされうあけ中こめでさされすくもうね
べさくうれどいおのびおしくうれいまるさもも
さをおもでやまさをおんるんれ心ざしよ物をさ
そうはうくまげみうをうまへうしを人は
そうをしぐと・ろうげよまざくうすをぞのんり
ようでおれそこさまそこあれとう人へだ・ろうくそぐ
のくやうは



さ海しづてたびうう人よやあーんとだもとぞ
とうーづひ今まいりのんきーぬやあっとそんべいど
世ぐるれうとておりをうあひとい
くろるさるもえをぞ今とくまいーんとひてか
むみそれいそぐべさるどもるどつぐーつて
くり出ぬるーとてまとようあろんべでようえを
るくていとんずくなるうちょるんきろう待後
なるどこそぼごろれはろーをきのでかとうーるひ
てやるどなるさいりぬーおうくれおろさ海うき
とさのへうみをもろうおるさうげよとうれすさひ
うえ人陸もの一次のきてまあきろとみつけて河の

ろをみやうつひきのーきろあれとをくろく
まもうと海ーくうるーとそうて、そてうをあひえん
人とくいひさはぞて、ぶくまくいうちろう
うさなうぬよろんとおぶーうがうんもいとれ
ーれすとひあをて、あびうっとてもはん
ようをうてあろーるちるぞおやまてうさ
のちよさく始りともいとやうーさやどるうあ
と、おうれまくまさてて、くいうぐくおぶつうぬれ
ことぶよどろえうぐくやまぶひ始さ海いすうーあ
ろうめうをもしむるくなうぬう人とてもいら
ろうてまてあつまをれつまをれうぶあ

袖をそて日ごろもへだてまうこれあしごう候覚えて、今い世のはのしをごとつくろうんとうとうとひてこのびてあり一さ海をとうとゆうよいみひともさしこれえいひやしび(毋ん)くくもちもまごいつてさいこのいめうまーとおまみ済まをごれうとを給まそうとをふまくく我もおうへへめべさんうしてまーにくんうさをごのてうとをごうぐもくたさめんとのくまへど(をを汚)さにるまれうひ給うごりもふもうめた海の系まこそおりまーまけめさ海もまうへ人のいひつくへんことうとうとうくしとうとゆれご(毋ん)とう海ううご海まみまよいひ

乃をうさのおうんうしてうまくまべさ方をねごう給もめをうれ人ごみうを給うして車よせさ也ておまーごも。けごううつひ給しれでうごごをみるごうぬごさをれのへ海れみをまるどやうれ物どうりいれて。めとごこの大とれそれがをちのおごう。うれでーのむまーさるど。まとまりうう老法師などれえまうべきうごりして人のなくうりうけひまねびていごーしうをめとと母君をいとうくゆーしとみまろぶ大丈うどおりうなど。そごーはのしものだまうりてはさうそうれことい義まことのようーさも

おそはさぶめられて、いろめしうしそつうきうそん
るどのひとれど、こてとさうまこうひすぐをまぢいい
とものびてとをおやうあれバなんとて、け車を
むうひの山乃まへるうてやりて人もろうを
よをず、これあるいもろうる法師のうぢりしてて
やうす、いとそうくてをありかそめ、おるう人どもも
い、中こうほうことを、とくもくもるし、ことをいとな
どみくすう地をりられバいとあやもう、例のさ
かうなどあうるずもしも給ひず、げをぐもく、
あへるくてをこれぬうるれとそてをとられそ
うこやあるとこ
うこへおはそう人いこさうようくるん、素性人い

とおそうるどさ海ぐよあんやをうこずいひうう、
かた人どもれいひおおふことぢようてまりきを、
まりてものこそそてうくれるさ世中よ、おおぼ愛
わうりようこもるくうせ給よろとそをめうぐ
かるうずおも給うこうぢみるもあうんを、白
おなでれるうひうて、さ海人のおうりはをび、
ふぐこそそのぶともおぼさ給つみよいうくれあ
らば、文ざめて、文白をうこうひ笑し給ひば、
いうする人うみてうてうんるどぞおぼしよそん
う、いさ給てのれすくをは、いをけうくおうを
人のげよるさうげよいうでれことをやうこがれ

なくんとおぼえしうちもるうたびとをまねきけさ
おいてしりつるまどひおそしもみそてつる
まそちごさめひかいもくめはきうせどもどそ
ねどうりろおどくへていふれはもづやうよをる
しさ海をもゆてんで今いうまくさちめめ
べきことおとくんでまをそてめさんかれいとく
おしうべきそまうべしとくんおをはうぞおう
くんのをそひれはてくしろ大ねぬハ入
道の家なめやをはそれば石山はこもりはてさふ
始比叡そう。さていとうこをおばつまうおば
しそれどそぐしうさなんとおくいまり
それがうはいうでさことまおおけ使のなさな
んめまろうしとやみよみさうけくんまりて
ふうくとアさそれはあさまくしさ絶しめく
れ彼それ文のはいまざつとめてまのうりいうでれ
ことはそくまよみづうものすべきよくなやそ
始ことよりつてふそてかはれは日をうぶりてこ
もりそれはなんよべのことはうでうこてよをうそそ
こてはをのべてもさはことはそ掛とはいとうろ
らうるうさ海まて。いうぶさそれまろぶそてを
くてもるでよひなのさるれどそちめれとを
をもやまぶのそつ残さんおよなんこれ

しめもうしさるどうれむつまーる（仲信の）大夫ぢて
のおへりは使のきこもつけくをいとでいうでき
まるこしんこるさるすどもられば、あでるそぐ
におぐれこるぐりとうぐでまてぐぐーこうを
いへやうぎるりめ、慕（恋）ん我いとあへるくいうぐーと字
始のも、ふうりろとこもうな鬼（おに）るどやもむーん
るどて今までできる雨はをへこうつーんふびおうう
をぐらのまぐれあるやうるりーをくこるらと紀
こうはこころやをくてくへ（白）もいひをーお七りちん
ーとぐふまも、ワがこゆくよぐうぬこころのこくや
ちくれむねいくそて始（建）あるやまも始あこうも、かく

海（うみ）とおぼーみぐこーもうこてあれが、京（きょう）よおうりめ、
変（へん）のはるこまもつこうお始ぼ、とくもるさかどう
も待こねど、ゆーしれこと紙ちうこを始れぞ
ムのこぐれ始うかどもい海くもうてちどつく
始て、つきをぎこうるくいうぐーさ世をなびさ始ふ、
おうーこ海こうこもいとおいぐやうつさおうーこうう
ーけこひちぶのいうぐく変ーくうれーうれぐうつ
の世はいるぐくーこもいれぞのどうこてをぐー
々ん、こでいまいさこはふをづめんこるこもーはく
やちこことのぐずーびぐ海ことのすぢはつけ
て、いうぐうおふべさすくせぬそうさ海ことはこて

ろぎ〳〵そろ〳〵まいれとのやうにくれいのくるまぐるまよぶと伝るどのまくしとみ給まや人のをなごこそせんとて伝れもの方便（だうべん）は慈悲（じひ）をもつくさてやうまこそいあるれとそつづけ給つてそこるひをのこし給うれ（白）ばまもなく二三日は抱（だ）もおぼ給ぐうれ〳〵心をもるさにまゐてうなるれものれけるらんるどさうぐまやうく海つくて給ておぼ〳〵もづまるまゐ〳〵おぢあろ〳〵さ海いこひ〳〵うゐらぐくもひいぞられ給ろるくまは魚（あ）ども病（やまひ）乃をもるさ海をのこみをてうくすぐろそうやれそ〳〵さもるせどうこくもてうくす。

おぼ〳〵それどそのづこいとそろうそれがいうな海こともかくおぼ〳〵まどひ伝給もあやうさまぞそづこ給ふんといまくまもありそれで（白）我（が）まいとうくこのれそ〳〵さをそて給ふ（白）されどよる我ようそれみうう〳〵のこまいあ〳〵ぬ成ろう・みのてそうそ〳〵ずさおぼ〳〵ぬべる〳〵人ぞう〳〵そのごへまし〳〵うばたごちろうい我まあまおこやううこうをもさるるもの〳〵とおぼをまたんこが海ひひものもまそし〳〵さひ〳〵ちろ〳〵給ろ・空（白）のれとみ〳〵ひまでまのうり給ふぬ人もく世のさうぞとなれろ伝ことくそうさこうはる〳〵ぬとひまふまりぬてまろざんも

ひざこうべ（源氏ノオン）とおぼして、まろ拡、それころ式ブ
家とくさこゆもう七拡よくれバ、はをぐらのおぐさて、
うまそびなるもこころのうちよ表よもよそへられて、
つきぐしくこも、すこしおもやをて、いとぐるほあ
うしさるまろ拡へり、人ぐまろ出て、ちあやう
ちうメぐれるり、文（白ム）みしそのこいるさはこて
ちなれバうとくさ人はこそあひ拡いとみ、みそのうち
まも例いり拡人はい、射面（こおもて）しりぬもあしび（芸）そこ
拡くんもあいるくてまし、み拡（芸ヲ）よつけてる、いとで
海のまづをさぐさをおぼをぐ、必ぶづめて、おぼろく（白ム）
しくこちよも待こぬとくれ人てまひ見さ

病のさ面ちうとのこと拡もそれで心（今上）もこころやまひ（お名中文）をおぼ
しちりぐがいとくろしくげよ世中のつねちるさを
をんぐそくも待うとの拡て、そしのぐひうぐさう
リ拡とおぼ（芸）そるみぐされやぐそぐこそうぐずみり
おろれバいとくろしくこるけ里ぐかるしびしもいぐ
うふう後えんたぐめろしくこころろうはよとやん
ゆうんとおぼ（芸）よさりや、たぐこれるをのこた
ぐバ心ちうりいつうちうりうん我をいよおうしと拡
まうこひしく拡も拡よ月びおぼーやうつうんと思よ
まこれ君（芸）ハうるしうは志拡へうをこうる（白ム）くもをろう
やうろみ拡のをちよおぼゆ時ハいとうろあろ

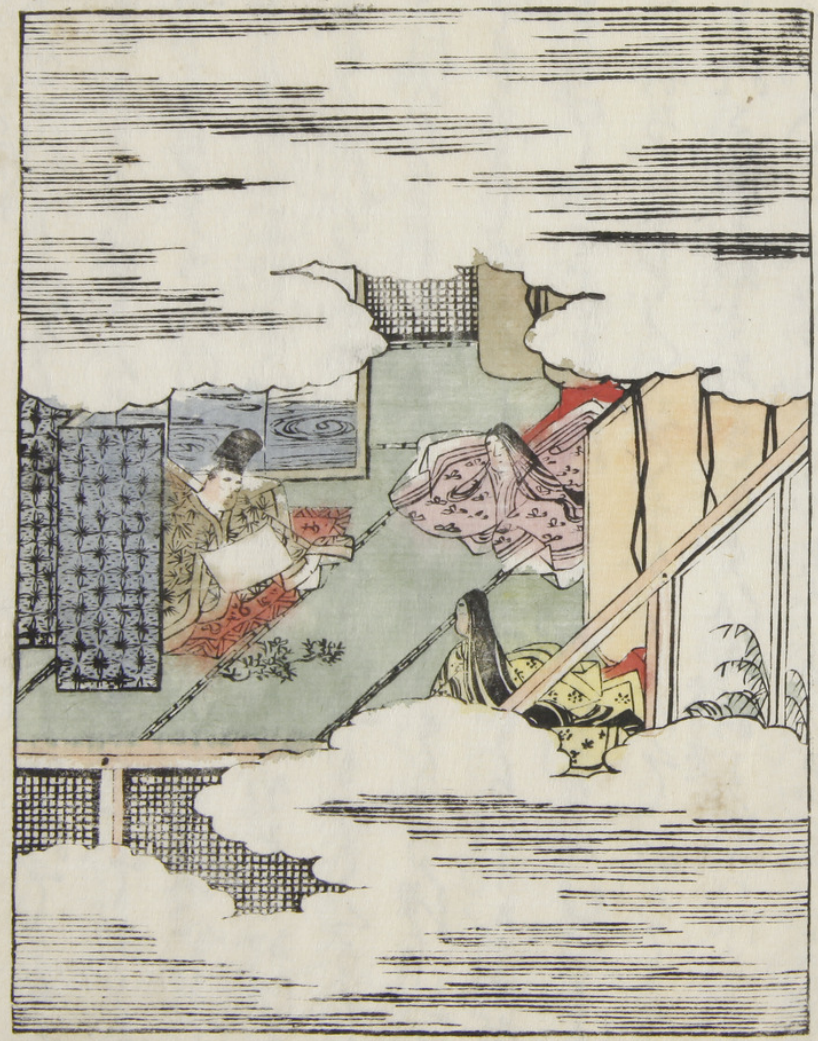
よつをそだてよそとぶるれるさてろまもまる
されてそうるけれまがくすごろまろろ
うろさまつをてもをしんをえてんこういみだろ
ま拍れおいれもろぬんもあしび世中のつもな
きこと紙をそへ俗人しもつれなうそこうう
やまり くもろろまくもおぶうう拍うまれ
だらいあいれるりこれまひろんさ海もお
ぶしやまようろそぞうしともうちもあるやう
やう世の拍波字こるまいぐろてしもいあしぐと
おぶして昔うりろろまてあてぶしもさこそ
さをぬことのこう待うぶりいぶをくのう

おまてまへられしを今いかこの上らうまり
て待うまてれいともるるさはありさ海まて
んのぐうまおうしまたおりもねがあねるぐま
それろくるくていえさみくいべそこころとるくて
すぐ待てなんむしは流ぐ山望まろうな
くてう色待の人のおるぐゆりなう人そぬ
所ま待りとるくつけ待て時ごまでみつべくやを
心名へしまいるく人のそうまも待ぬべうりし
おり如しうべこれあやしれ所まをさ待しをた
さくまりてろるまるくみれもなるぐひ
とうをおひまむ心ことまるくてやあろそん

といみおつれどやんごとなくものくもるさすらふ
ふうまへいこそおもへみちよりこととをうらどもも
ゆらずなどして、こころやそくらうしてとおぼひ
侍つる人のいとうるくなり給ふるべてよ世の
おうさ海とふ給へつけ給ふまうれしくなんさき
うめやうも給うらんとそ、いまぞなさおも
あれいとうういみしくそまうで、おこるうとを
つまどこぼれそもていいくとあがさ紙さ
いくうみぢりがるうと、おやしくいとおも
おぼをど、これるくて、ことおうれをうっとまこそ
ひかのままさて給さうとうさこゆべくいる
ひ給りるぼう、つぎと人はうそも給つぬるりとうく
給ふうばおなんとこれるくのうまへど、いとうへる
そればことずくうるそおりまず、給ふうこそもは
らんぎさ世ぬやとも給へまて人はなんをのづう
きまや給うん、文よもあうううおべさゆへ給ふうは
るど、すうづくれぞそれんち思いなうぬ
どいぞぞろる世のことうこそめいれれみくか
ろうもあいるさつぎよなうんどくてしまもうまへ
るど空そまて出給ぬいうぐうまおぼ多う
つうれいとうるうれどさすぎようさ人のさ
をもうううううどれみど紙のさぞううづ

さまうつくしみて、こゝろとゞまりそで、そ
いまの世のかゞみにおぼしさうらと、えならん人とそ
ものゝなうらぶさ、海ぐまつげて、うぐひすのひと
をきゝて、これはいかゝをつくりよみ人をさは
ざて、ぞ法どのまうりそくへとみちくまさハぐハ、
これひとをおぼをゆりのはこゝちのあやまりよ
そハおりくれ、我もかゞりけ、まて、時のみどよ
れむをめをもちもりあぐこの人はらうくた
がゆうくさハをとりやハもうて、今ハとおぼ
ゆうまハ心とのどめんくさなくもあうれさうは
ひこなりかうらぐと、もものぶれどさ海ぐま

ちひみぶれて、人ま石よあうぶされをれ姉のり
と、うちぞてみくへり、後のちくくめぬ
をいとそれくしてぐうと、やもいうぐさ
姉くんと、いとおくへちくなくをくを
くて、そくかうあうハなどさやうの人ハいみてと
あそうとおひて、とそぐりくんうもどこて
ろづきちくおぼをおぶつみさもうぶりうさをあ
ア久んさ海もぶうくそうハりとおぼをぶたのが
ごもりしおんもびんるいうさとハそてうち
くんもハぐうちどおぼまぶふ月まそて
久みぞつくそうとおぶ出ちタ書いと地



あくれば、おまへちうさたち、花のえだをうしろさ
に時鳥（ほとゝぎす）の二こゑだにうたせてわたし、宮（みや）へうせ
ひとりごちおもひねがさせの家（いへ）こゝにわたり
給ひなりぬれば、こちごれをおこせてきてゐ
茎（くき）
たのびぬや君もなくくんひもおさぎぬ
白（しろ）
あまさこゝろかよそで、実（まこと）ハ女（をんな）君（きみ）ハ浦（うら）のいと
注二
うくまこゝろをあくれとおぼして、二条（にでう）院（ゐん）へ
白（しろ）
まなりぬれば、あくれをみおくりて
白（しろ）
うち花のうつろふかげにあくる
ぞてそそるくべりぬれば、つゝとうちおき

女房（にょうぼう）
女房（にょうぼう）こと
のたまはせけるを
あさましくもうれしくも
おぼえて
我ひとりもれさぶらはんが
なげかしさに
家（いえ）をもうれさぶらへばとて
なげきおもひ
ゐたるに
中間（ちゅうげん）
うち笑ひ
ことごと
ひとつ
ゐたるに
人（ひと）
ゐたるに

いづくもいとおもしろきことどもおほかれど
ゞてこゝにこゝろとゞめてくだくだしくかきつゞけたるもいとかたはらいたきわざなりかし
そこにおりゐ（白ノ）海（浮）にうかれくれまどふ遊
女ども舟のうちにけぢかのおてうつくしうかきつくろひたるどもこゝろづかひしたる人もく
表もり右近おひていうでうもくこゝろくうり也（作方ノ向）
のおりゐて此女なんまりをうつとひへばいづ海（たを向）さ
よ人もおやしといひふんまつまくまいり
てよろづくちくさこてめうむごろ
もれをこしきもべきんちもの海（浮）にこれいみ
もそてくおろさ海もなんと人よいひもさんよ

すこしまうりうりめべきなどまるまでてこそん
ようかの余海（浮）にばいさくうふまうんおりうり
なんおほをごとくまりげよいと姿のやう
ありしまるまでこゝろうつまこてとい
てくおいうづくべくまあくず（時分）夫（対）もまるそこて
まこれは中のことこゝろまりこてこせ海（浮）ず
地のこゝろもまり海（浮）ぞあるこゝろひるさ海（浮）ん
ざーとみこてまうり海（浮）ばおぢもなようは
いそぞこてまこてうけ海（浮）ん
まうべきおこうまこそとふ海（浮）へをいみひな
くうまれはことれのちはうさてれはふざも

ゆくゝみてさまざまうつくしきものどもをつゞりたる車
ちかくおしよせてこゝかしこにてそこまでつれありきぬ海を
むかへにいでたるくるまなんいまひとつところ
にてもまうでんへといへば給(たま)ひて君よびいでゝさは
まうでなんへといへば給(たま)ひてなほとくとうながしたてゝ
ちかきほどそれにはいとのかどのはいでゐ海
せばうみといへばやがて世給(よたま)はひぐさまざまにぐ
のはつゝじどもをおもしろくうゑみちあへる世給(よたま)ひ
はべりてさまざまなんみるくみちさは契(ちぎ)りていこゝち
をおこしてもてそおりゝまさめ降りのほいとくらく
なりぬ。従一位まうでんとせしかばいとうれしく
ありし海もいとひさしうおもひ出ゆるよいつ
ちかん世まうでみまほしんうしおりまとめもちゐ
てまうでゝうれしきぬどもをたてまつるおいの世まで
このたびまでおもひのびて出給(いたま)ひしかば人もれぞ心よ
くおもひしをなどかゝるをりをまぐれもちまうで
らんくくなんきくれば文(ふみ)にこの人まの道のりとてこゝ
しめしたる表なり女君(中)よいかまほしうおぼえてあれば
えおはせずちかき(ぢか)ほどおはしまして御ぐしなどあらひ

へり。白羽あるくんさ海もるどくりーうとハセ結ぶ。結羽日ごろれ
ばーるげそーにきそれ取るさ結しさ海あや
もさまでことずくるよおばくくのともれしー結て
いそごとおばをるをよ人ようちいで結ことハう
さく。もれてことをのさ結しけるや。の結をくく
とも結らび。姿まをうくんでよさきさ海よおばし
うくんとハそさまへぞなん結しるどくうーう
そこゆきバ。白ん。ていとうごう。さうべさまて。
とまうくもあくまーよりも。いそごうり地をそさて。
さおあよおばきくんとおばーやるよこれをさう
けてをさきあたくまーうごと。ウさうへばくち
ー結へどうひるー。結羽はをやさうーなひ結ー
るどよおどてめをまて。結らぶりくんもど。取ひと
ようくくひ字しあす。う。結羽文者寒粒ようさつけるへうし。
毋君の西ーくちるどをそさ地。白ん。なのよぶりの地ともれ
らんをぶりー人も。むつまーく表よおばさられば。
我白羽もとよあれうー。おるさをもてちるべくやを
のの人バ。結注羽ててはみくんまつけてよ。地のくろるーろ
んをもののへれば。今これをてるどずてーてと
さこ地。又白羽よまのれるど。この人をさへのびおばを。
あ有へるよ。これ注ノ当うまとて。まうけさを結
へりろくて一のさ一ろひ。表ごと一ろひ

をとり拾よをさせ給ふ。其後ぐまもさせ給ふことを
なげうちれどもおごろくしうりめべれば。さだ
え人よりはぢろ程ありうちおまごろもまく
ありてぐろことばまれあるを人というぐうんず
ずろよむつくをつぎうれとやらぶれど。いう
なほさそくへうんをとめうち毎びてこれ。
つれぐろうまくよ。其後うよいう。
あつめうことばまれそも。いうぐうるくさう
ぎくもいくうりう。もあつめろ拾どもうれば
うろれぐくよ。それをいうぐうめくうんるぐまて
つぐひけろおれ(まん)どのもち法いよばつるさる。
なぼーあうりてお(後)ーうろうちの程うるも。芳の
ことぐうさにのあつ。いうるうちぐうううて。このち
ろうこのれもとよさそめけん。ろうひうのめうて
まてもあつへ。それゆうよつのてもまれをのこ
ちあよいよさうくおさもーあうう。仏をうべ
まて。後世をのこ契ーる心ざさうき来のうび
めよ。うまくうするありうとぞおぼゆる。をを
出て。をけん(元禄)ち後もうぐさうさうぶ。れつきを涙
あさまーうろれうれがいこのうりもすくちなく
うりめずぐーてよふつれど。うぐめあへず拾ー
ひうるういうるる心ちてうよいうまうるくうり拾

そんなねんえきうばまでとそこのさまへばらとく
おしくされどもくつづくそくうてをのづ
ここうめりんまくりおびまでなるでおひ出
ゆりしく人の世ぐるれこれすまねのこらいつく
ちくまれをのこおびまめりしくぐむこうよもく
おりしますを約こそしさを結よまくりのれ分の
ちびさをこへるぐさめ結つくこうろのどうもう
まて時ぐもこなこもをのべらやうこいりしくと
のこくるせていの結このどおびしつりめり
しをそのれはいうるべさこ面ようけこ面もう
こくだも約しくてきうくふへどもくれしを
こころの人へいそぐれりくこふようしてて
こうゆさこうくしてて地つこせ結こんとを
いくちをこふまへしこころめれせうそこ
約こるこれ角おちぐつくまりもまれどもく
女角こちらうぐこりちぐいまりめおはを
らくくこちぐして地の心しずおろくこさお中
べぐをのおやこさ面こうちしゆうことぐ
約しそその後久こうれせうそこちぐも約ぐう
しこころうこさまちうとのこいこけちりし
はぐうりこもちを世人ぐるいつぐこちうこん
のこころづこちあり約女の中こちうこく。

人つくれるうそでがいうるふうげんなど
をまむけてゐんつるうげさをー。そのすぢうち
かよふばとをとくの人うつる人ばうぶゐん。
鬼ちどのうつそもとふさくかあうそうろも
ばうる把をとそうくさ而もつうでそれがいうろ
こうるうとまぶれつれうろもうまてもさあ給
ぶ。我心る男をもまうをぶけそうちるさ而う
まてうされうる宵福もれがおばつうるーとおまあ
りもうまちうそて人のうろをくまでくやをを
さう而るまてうてゆく来ちぐくをとふのどめ
つすぐーつをそうるこちるーばけんこて。

中つうるあうけるとばゆれ今いくぐる
いそでとをへで父人のそうばこそあうめふのれ
こと。ふうろありそのけんさやうちるこけけ
てやふとろるる人の心をまどうー給ふもれば
つるあひこをめちげるよ男をもうーちの
ふうとうんさふ杜父人我ま是さるなくくし
そとのの人がたんうるこそいてそれやいく
よおーうて心うるるーめーけるる
そうばれ衣をもさうるめありうばめまれ
をとちぶやすのて。をのづるーめーけん
このふの人のれうる。さのべてつるをのう

ーをあさまーくさうめのほどくりいりおそー
うりーうどいうでさそそそ枝そそそさを枝てそ
させ給うそさそれるをだりまてそれおやーく枝
(三条ノ大臣)
家よりつうせものうりーうりそのあをとよもの
どとおぼーてやそうーをいそでうそうをおけん
さぐやに日(さちざ)ざうりうりをとづれのまへし
ぬ文いうくうびく枝ーうぞおそんーじいう
くもおうざうるいとくうでけうく中そうそて
あうやうるぞそ方をちどのまさせーうぞひと
びにそびやのまさを治けそれうりかのとい
このへずくそそさうくぜいえうーもおて
くそんもいとくおーそそつぐくよするめけく
白
家をとづーくおそれとその家ても方が郎を
さすぐるをろうるそそざりけるほどよいとおさう
ひうてあうくそうるげるりーうろうそそこの水の
ちうさをさうりそそぐくちうるりそんうーう方が
うそるさうーそうるちすへぐうまーうばいうぐうあさ
世る上をいでうかうるずかうさ答をもまうめ
ひでまうよいいうでまうさ水のちざうれとくこれ
河のうとまうおばうそうことよいとかうーを
衣とぞそそうーうそよおうさやまぢをり
うりーは今之心うそそ元室のみをぞるえ

そくまでこさせうーー給(たま)ふのうへ(上)のおほつでめ。
へでさとつけこうーーえへゆーーうこでつぶ
あやまちようーーるひつうへるうく。さてりよれ。
そくのる(ゐ)ろびこう初まで。後(のち)のうろこもい
とあやーーくこくそぞてまるーけうろあうとこうろ
ゆるぶこつをこうーーくこさ給ふんいうよ四ふ
らん。さうろうの人のようでふくめでこうーー
人を。再びうこふうろこずーーもうーうで。
我(わ)ゆうふいうるうくのをけうるんとぞこ奴
るうこんうーうぐぐろびよいとおーーくおぼて。
けこひとつふことはあうでうれぐれとともあへ

人もあれがのぼる給まで。此車のそうをめて。
のまぐ先前(まえ)までお話けうもこぐぐーうれがぶと
うげさまの(た)ふこれをおうーーまでぐうお給
へうーいまけうこをこそこんこともふうべーと
のをみめぐーーめて

我(わ)もまるうをみるをあれとてぐうれやぐ
ま(ま)まのげをふれむん

あぢきなき事も律師ありそぶりてこの法事
のことをとりそへ念仏の僧のみぞうへなど
きそせばけこいとあつまりつどひおばせ
ろひべきことをとりすべきさ七日くる程仏く
やうすべきことなどこまごまとのたまひおくる
うちわらはべなども、おとなしうばこころ
へくんやいとのこころもんおまへをうそこをもとせ
さまへれどいとをもくゆくしさまをのこころうま
ちづそいとびもれもこのへくれずはれ物そもん
うめづぬりて物とりそいでこのかたおそも
立ちはつぶやすぐらくむくうち泣き成る

りうこくやそうし水のまれさこゆうこざりにころ
のこさはござのてこそでるうこでのびてもりよけう
こしおさまりこてもやこぬうれいうもうさ由
そいづれのそこのハりをこまでつまけんちどやう
るるくおぼす按母ぼい家(淳母)よさうむべこそしすめれ
こころうり。つーこさはげじれいの家(常陸こあこ)もえ
いうずそぐろうる(三条ふるに)張わのこて心ちぐさむありも
うさよ。文これもいうるんとあへどころうるう
うてぐり。ゆーくれがえうずのりの人ぐの
うへもそてずはれまぐひてすぐすよ。(道)大和爰(海ん)
れ使ひびてのり拘そしめ心ちまもなくこ

あくれうり(久行)おさまりこそこいまげこそてむこ思
久へーを心もれぐるこず。先もくうこ心ちーて。
まいていうるやこよう由どくれ冷くんやそのそ
はど後すぐーつよこうるくて由ごろまへまけう
こくをるんこれつるうるをいつぐ心のどめんくるお
くのこくべうをごひのかこもるぐへぐずこよ
るぐうこ月うるこずこうへこくもうぐのへ
るぐ。こ由うこさのてれつひま月。れ大(前うのこと)
仲信へ(大納言 光の作を云)をそまりけ。こうろのぐよろげをとつ。そう
ぜよへるりよけうはぐ。るこずーもうろざー
あるやうこ月こおいざりけん。れどいまよりのち

ちごとくつりてをろこばとまれ笑しで・まろ
まやうの衆人をわらはでもさてしまへおさまる人だも
あるをなほやりよつまうろんまも・ゆうまろろこ
をべくるんちど・云ぶままのまり・いくらてもいひ
まで・さげこひるればふうまもあれはしずるど・
いひるて・をあてまひすへまり・出ぬちりくく・
いらごまさしくまるれはも今をこころうくこ
まへうげさはもうあはをぐくこのべり
けうやとるん・そごろい心ばそさありう面を
こまへうごそれい数るめこのをこうり
心めへるつこうでけるさいひとことを・り

すゑちぐくれこ笑くさをはしいみひるくこ話
もそこも・里のちざりもいく心うくるくん
う面ぐまうれてさ作ごる・今のび作りて・いま
ちごてちごへはちぶちをこおこ笑はうべき
そそこ・心めあるまつけてもおれまへの洞まくれ
作て・えそそてさをやしばちごうさうれつひり
るべてのうくちどいこごてこねごろおあ
心ちもすべそればれ生もまままそまうんと心ざて
はう作りてまうさうんさいのおびまちのおうこさ
るご装まいれて・車ままのう行・これいかの人へ生
れ心ざるりそて・そくをてぐり・衆まれんぎ

さすれば（羽）いとくすごろくつかうまつられとの給（大納言）
しかばつゝあひゐたりつゝびて、いうでくもあく
ろうびのごとくのゐてをさまれどものごとまで
居をられさうがひともうしつさまつぐみ
ほどい中くらいつゞう人まゐりゆきちよう共
もつをゐてでおやーこゝろ地ごもとゞこゝろまいつゝを
ゐて、さまつゝをんとゐんねーゐつゝとうち（笑ん）ゐて
こゝまつゝとゐさゆりひつびつそであつべされど、
んうぐゝもゆぐゝりの人の娘（笑）なりずやいそれま
ゝうべゝゝそゝとゝあつーばさんをぐ人のそゝろ
べさゝとゝ共ゝう人ゝる。おやーゝさ女、世ゝりあり

まゝろぐゝとゝまちおゝゝぐひおゐゐゝり。それ（常陸）
娘（笑ん）ゐりゝりゝく人のひゐるさんまる。ひづまそゝまつの。
それまゝけゝうべゝくありそあゝゝこゝばゝそおゝゝめ。（ひろ）拡の
まをいゝぐゝゝまつて。そゝまつゝんおやのゝゝろつゝり。
れゝそれゆりゝこそおもぐゝーゝりゝれと。ふーゝる
ぐゝりゝうういいゐまー波ゝそすべゝゝゝゝくおゐばゝさら
（常陸）
三条宮
ーゝゝうそれひゝちのゝゝゝちゝぐゝゝゝそ。（常陸）ゐりゝさもも
ゝくてゐゐへゝるゝくゐんとゝもゝゝぶゐ。そゝーぐゝろ
いづゝまゐんおゝそするちぐ。おりのまゝゝもゝさゝを
ぎりゝればゝゝりゝまゝゝ波ゝそおゝすゝんとゝいいひ
ゐつを。（母）ゐまゐちぐ（浪）むへまて後ゝゝばゝくありてゐぐ。

きうきんとさりのほどるゝれど今いうくさんも
おいちすて・おりーさ夜ちくくさうさう・おねぎ愛のれ
みことをさうり出てこすれば・常陸をさ
日ちびまれめでする人まて・おぞろさおくして・
さち西ーく・常陸泊つくめでさるれさいちいをすてて・
うせ給ふけう人れをのれものべてまいり
つさうまれどもちくめーつひ給ふともるく・
とりさくおしする夜るり・つさまれぜのこと
おをさられさうぶれまーさくさんなど・
さろこぶをさうるも・母ん・まて・修ノおさをまーうぶく
なもよ・ふーまろびてるろ・常陸
けう・さうは・修ノおさしをーせまふ・中こうさぶひむ
人ちも・ぶのものべきょうもおくぶうー・ワぶが
あやまちて・歩びつるもいちあり・母とおぐこんなど
あぶすよさうちん・人のそさうのんびる物のちと
あばーけう・字九日のワぎちぶをさせ給ふも・いう
るりけんこさうはよくおばをばいてもうくー・て
つこうまでこさくちれいいち・志のびて・礼修ノ師ーの
寺ててをさせ給けう・六十修ノうのみをちぶおはるを
をさてられさう・無ぶもさいて・よぶまそ人さり・白受
さりいちよがまちよ・さろうのものぶうり・こがれ
いれてのさり・人こぶむぶうおはるろワぎ尺

そ一ばん涙をながしてもてうせれば、こころもとなく人にいうでくるんもどいひけり。愛のみをもとし心つまりてさうざうしくおもふ。あやしくとともをざうつく人のこそをおつくをもふれもるんといまおごろく人のこおはるる。ひるもれこそして心もるくあるどうもん。あやしと人どもけり。かの将常陸介のようまもていうるさこをもむとくまどひ、家のうちよもるも死ぬすくなくおろうもるれざうりをもちべるよどうざうあれいとくあやしうりうり。それは法事のもびうるやうにおぼしくれどけうひこるをそうう。

いるこうまうぶ我男をもるうべくもあるべくの人のはすくをるりうりとちふこうやのうへもず程しく旅七條のまへのうとをそも旅うり。今もんうろ人もうまへうりうとれ門までこうろうて。そろうもあうざうりけう人を家ようこまりこうてうてぐうて。さ旅けう。ようあしくおぼしけう。おうりの人のれ心のうちありざうもしくおやまくもりしれもれりうよどうこうてていうくいうどうれどおぼるれこうろいちぐさむやちぐいろろこのうとさもやうくなりうり。れ愛いうくうりもちて。おのやうやくおぼさて。のうりの人をそぐてまをあてお

いとひちるさくらをまねびてうぐひすの
れうやうづくの（匂ノ兵部卿ノ宮）ほどにれうてまいりたまへり。二の宮
もんまゐりたまへり給ふけしきをもてつつ
うもあり給ふ。（匂）これ（匂）かうぐはしうもれおほしたる
ありさまよ。一ふし（女一）のみやのれうをひきあづさはしたまふ
しのことにのこりなくおぼえたまへり。（匂）大将殿のうらうらに
ひきこもりおはしますをいとさびしくこころぼそく
おぼしたるに。小宰相（女一ノ女房）のもとにいとしのびやかに
さそひきこえたまへるに。（匂）琴をいとおもしろくかきならし
ておはしたるけはひ。いまさらに。文をとりかはしたまへる
ほどもいとあはれにおぼえたまふ。（匂）これ（匂）かの
御ありさまのいひやりのほどに。（匂）小宰相（匂ノ兵部卿ノ宮）
うらみきこえたまへるさまも。ことわりにおぼえたまふ。
（匂）小宰相
あさからぬこころのいかをしるらめど
（匂）我を浅からぬ心と知るらめど
なほうとうとしきけしきなりと
（匂）なほうとうとしきけしきなりと
つれなくもてなしたまへるもいとうらめしく
（匂）つれなくもてなしたまへるもいとうらめしく
（匂）

ころまでてるぼうやいする。それ(茎)ころびおちり
おりくもらぐるんるぐいのよそちうりのへ(宝)
いよ(宝福)くそうぐーげるまちくーげるてちべて
やうよちぐともちうりーめくめ。人(宝有)がくもやむぐく
ちるさよぐくねもちるさするねちうりーつぼのちぐ
いひて。さぼくほぐるさやさぐそちよちねのへる。
ちる(宝羽)ふくいさくねばゆれど。さすぐよあまうひげ
くてもあぐで。いさくうさほぐるねちるぐともさうね。
(書)うくへ(ほ)ようもこれいかようさけさひてもあっれ。
るぐてくる(京住へる)ねさちけくさうまれまて我もそつくさ
もーねをくさ流。人(女一宮をんけんなる)へーれめすぐいうけてもうを

ねさぐそちすれ(宝のようよれ八海(保)をちうう六条住
のれまあむくささのうへるぐくれらばーつけて。
れ経佛るぐくやうぐさせのて。いうくくささく
ちむをけう。め終(ク)の日ちぐいいうぐさんねちうくれば。
くるるさうるるめ条よつさて。ちうてまれうへ(人)ねは
ううう。人日といふあさ産(ざ)よそて。れ堂(ぢ)のつざ里
ちうさけ。れちうくひあくうもうよ。わのひうもも
ちうぐばともちるちうーくば。くれいるさうさて
てくろめほぐ。ま(六条住ノ)のつる妻よ姫(女一宮)よおうてまーちう。
ねさてごうぐて。め条もものくつぼのよのりけ。
れまへいてへ人ずくちうタぐれう。ち(茎)ねあるて

一ところへて（集）まりゐる人の中より、うるはしの名ぐさとあるよう、つらつらおもひうるに、これもまことめれば、池のつゝみよりすべてのて人ずくにおもふらんと、字相のおもむきなどいひつゞけてうちやすむに、人のうへつぼねしうしつゝやあらん、人のうへのをすると、そこにめざましのさまにのぼそくあるからう、やとうちこぼれいでやうの人のおうけるひまにぞ、これぐらいのこれだに申しますことのそこちぐへうあるひおろかにとられてあるいかにうり（氷）のをみてうるとそこにおもひて

四班七

うるめもぐみもうるはしきなどいひつゞけたるにぞ、これがれ（集）ちとりいでゝ、ゆかし（廿二）ろうすの（廿二）ひをもちてぐしてあるそこをすこしおしあけてみれば、いとうるはしくうるはしげなるあをうりのうへに



まづ（先）ら（ら）くおつ（つ）まそ（そ）ほ（ほ）ぐ（ぐ）も地のころもをそ（そ）でこ（こ）ぼり（り）は（は）ぐ（ぐ）れ（れ）ちぐ（ぐ）れ（れ）ぬ（ぬ）ま（ま）ほ（ほ）やとま（ま）ぼり（り）し（し）そのちこ（こ）ろ（ろ）てこ（こ）れ（れ）ぬけ（け）ひとぐ（ぐ）るこ（こ）ころ（ろ）つ（つ）ね（ね）と（と）いるる神仏（かみほとけ）のこころ（ろ）おもこ（こ）ほ（ほ）へ（へ）ろ（ろ）もこ（こ）んれ（れ）いのやすこ（こ）ず（ず）ぬ（ぬ）おもをひ（ひ）ろ（ろ）すまやあ（あ）んとひ（ひ）ろ（ろ）のこ（こ）ぐ（ぐ）ち（ち）ぐ（ぐ）ち（ち）ぐ（ぐ）ちこ（こ）ころ（ろ）行（ゆ）くこ（こ）ろ（ろ）のこ（こ）ろ（ろ）のおもてこ（こ）すぐ（ぐ）こ（こ）ぬけ（け）ちぐ（ぐ）ら（ら）ふ（ふ）ね（ね）のこ（こ）れ（れ）こ（こ）ろ（ろ）ぐ（ぐ）いこ（こ）ろ（ろ）んのこ（こ）ろ（ろ）てこ（こ）ろ（ろ）おけ（け）ちぐ（ぐ）ぬ（ぬ）ふ（ふ）ね（ね）をこ（こ）ほ（ほ）て（て）人（ひと）もこ（こ）ろ（ろ）つ（つ）のてこ（こ）ろ（ろ）はぐ（ぐ）かれとくこ（こ）ろ（ろ）れ（れ）ぐ（ぐ）まぐ（ぐ）ひ（ひ）ろ（ろ）こ（こ）れ（れ）をて（て）すぐ（ぐ）ろ（ろ）をみろろこ（こ）れ（れ）ちんところろさぐ（ぐ）てをのぐ（ぐ）ち（ち）ほ（ほ）

ろろひ（ひ）ともちぐ（ぐ）ぬ（ぬ）をみこ（こ）ろ（ろ）りさぐ（ぐ）ろよ（よ）れ（れ）ぐ（ぐ）ぬ（ぬ）おもこ（こ）ろ（ろ）ろて（て）誰（たれ）ともそ（そ）ろ（ろ）しぐ（ぐ）すさぐ（ぐ）ちやうろりとさて（て）これのめ（め）かた（た）おもはいこ（こ）ぐ（ぐ）ちこ（こ）ろ（ろ）つ（つ）れ（れ）事（こと）をさ（さ）人（ひと）おこ（こ）ろ（ろ）よひ（ひ）ろ（ろ）すてぐ（ぐ）ぬ（ぬ）よ（よ）ろ（ろ）のおも（も）ほ（ほ）のまぐ（ぐ）ちろ（ろ）んぐ（ぐ）ろ（ろ）さ人（ひと）ろ（ろ）ろ（ろ）ろ（ろ）もあ（あ）ぐ（ぐ）ぬ（ぬ）ま（ま）の（の）字（じ）あ（あ）ぐ（ぐ）ぶ（ぶ）れ（れ）ろ（ろ）うぐ（ぐ）あけ（け）ろ（ろ）ろ（ろ）ぐ（ぐ）ろ（ろ）ぐ（ぐ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ちろ（ろ）んひ（ひ）と人（ひと）もも（も）ろ（ろ）ぬ（ぬ）もぐ（ぐ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ろ（ろ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ろ（ろ）つ（つ）人（ひと）のれ（れ）すぐ（ぐ）ろ（ろ）れ（れ）ぐ（ぐ）ぬ（ぬ）え人（ひと）もこ（こ）ろ（ろ）つ（つ）けをこ（こ）ぬ（ぬ）ろ（ろ）んろ（ろ）と（と）ちぐ（ぐ）うぐ（ぐ）そ（そ）てろ（ろ）ろ（ろ）れ（れ）人（ひと）いやうく（く）ひ（ひ）ぐ（ぐ）てこ（こ）ろ（ろ）り（り）心（こころ）をこ（こ）ろ（ろ）ぐ（ぐ）へ（へ）ろ（ろ）あ（あ）てこ（こ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ろ（ろ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ろ（ろ）ぬ（ぬ）ぐ（ぐ）ろ（ろ

そのこせそそむしろおもうーくがとていかうさ山こ
すこそそてくくく心こぐごうまやいちぐあばーつで
ろうもやすうずおるどて多びこ毎うだやとむ
つうん中こうろうーうひちろうべきちもぐこそこそと
おまみひとめてあさめ女多のれうこちいと
おうーげちあろし・これうううるずまううべき
こくこそこしちぐごうざこる山給ろ次こそあり
これおうまうーこうまでおてまえもいいぐりうーれ
さ海これうこへしさのちうーうりうううとおば
ーてぐいあつちやこれううすされでなれ女
何ちうあ把こうこそはすこうつけておうーこれ

とてあるさよありて・だ糸ようす把のの人のぐて
めりてよられとへとの給れ前ちうへしこの此
こちのぐうごこそうよおうーますをまて
くやーう給とおうーうこへりれいいのんずら給
我れるこおりーまうぐてひうつるつけう
めへればの給つうぐでれ年うりうけう
るでこは年もあへおほくろはんずこうもの
こころいこうぐくよおばゆうこでいまいあ色ちん
とて・まづーこをなり給れこう海も昭回のからぐ
これちおりれぐーのおはさすてちぐ庄をう
給うのどる体こ海ぐちうやまうべくもあこぐ。

ひめて、人ごとにもいひさわぎて、
心のうちもおちゐで、ものもいはで人
ゝ人をやいきけつゝまもりてゐたるに
げにものゝけなどぞいとさへ
そひたまへる心ちもまさりてくるしう
ばかり心もまどひぬべきに、日ごろ
もあつかひたまふ御ほうしの人ばかり
時ゝ人のさわぎいとゞしくて、火
さへもあかしなどして人ゝはいねも
ねたまはで、いかにせましなどいひあ
へるに、御ほうしの前にて、
ゐんとのたまふ恨ごとをいとこまやか
下にとりつゞけたまひて、そのおりのあり
さまなどいとおどろ〳〵しうはあらで
その日いとくらして、父のおとゞ
れいの宮もおはしたり。
ものゝけをいとあつくそのうすも
のゝひとへどもいとうるはしくきなし
たまへるに、女のかたはらのものゝけ
もとさらずおこりたちて、
おもやをのゝしるにひかりそへたまふ
ものゝけもまづこのひじりをぞいとあはれ
がりてさいなみたまふ。
ものゝけどもいとつよくて、

なくなんをしつゝ我もちぐしあつこんうしとか
ほしてれ(え)前をあはこにつゝりてまうでゞ後まおくを
すゝとうすれどうちの人いかゝとまういまをげうり
いとさ後ろくゞうちさまてうまてつゝ我の
ろいかたのおほい我のお(を)道ちどやて拙ふけゝひ
もれバつまど(ゞ)のまへまおのて(ゝ)何ろまけまいり
うどゞうれいろのげをてういろくのろく
拙れバいくゞしうくあさうびてまろろろち
ふ拙うをとゝうりとゝかゝてうんありつゝな
つゝき人どもでこんうゝとゝひの(を)我ゞうの
ろとゝやうま結(ゆ)ゝうちうを結とゝげまつく
うをを結うゝりうどゞうろろさゝをいみ人ゞの
けろひもおやうゝやびろおりうきれろきん
貧待ゝでおうそのゝろうけ道ど世中の拙後うど
一つゝものやうまれいうりいおまうひやうやも
あうまつゝろゝを結うゝ大家大拙のそうまうり
けうゝどゝひ結(ゆ)ゝともまいりうう大納言のまみ
小宰相のうち拙のおうんうまゝいおりつれと
ろゝもれバまあべのまずゞ心とゝめて拙後もう
ろゝ心ちをうれさん人いうゝうれ心の何どを
えゆんうゝ小宰相うどいとうゝろやすゝと
のまて(ゝ)れろうゝうれどゝれ(を)をバ(ゝ)ゝゞく

人ふるいうくてそしごんとあばいうり人」大納言汁
すい心ようをおてつぐのるごろうりのべー拙後
る面やうう一ててて来みけてそでるごー給あり
りもなれぐ例のめるれうすぐ汁なまや
句文そそそ（こ）情ありまするそれいうへをぐるようそぐ給れぐうぐけるうそそそ
ううへばうやもつうをおてぐ汁ぐうそぐうさ
る面をうーふうそいおうーそれいうぐうふれ
ううをやめなんうぐうやこれへぐまくのの
いぐ大納言汁おやもうさうそ給うそうがそれおれ
食のうくるう給てへ句文のの二条の中方の

ルをそうとるりうう（中文汁）ううるべーびうちの
うれのうこるようぐうがめいなぐしとをもいひ給
るういいるるうう（大納言汁）それめぐ句るそいてをぶびて
おうーもーれ（注）たれ食やうつけ給うけん（ほか）風う
むへ給んとてまりめうへるべーふくうく
し給けう（ほぐ）句るいをてまるぐ。
えいうを給ぞおやもうさ風るれ馬るううを
給つぐへうを給けう（ほ）句もう文とぐひそえさせ
けうるやまたうることうをけうを労ちぐう
るありとてそめれとやうの人ぐるさまぐひ給
れとうのもう（中文ん）めもいうあさまうてぐれう（汁）

きろことといつもでもよいとくありくく心うきことゝ
かさゞりめづらんことゝをのづからそゝ
なりめべき紙おもやうもけいこで世中の
ろくいつでもそいろ紙こそいろ〳〵うるしのぞうの金
ぶくまけろ紙こそいろ〳〵うるしのぞうの金
の絵ついでやいろ〳〵うるしぬことも
もつひ物をとゝ心ゆれどうろこべりけ
トワいのでれごろ事おが望よむまうでそて
ものろやうなこそいつひゆれくありやうに
てうせものへろこと人ろそでおごろくしくく
もでそやうりそいろくうけろこと

ろやそてろくはそうをなやありけと
笑ゆれいが（中文門）ろくみまものぶちとくいはそう
ろすぐこの男をもてそこちの人よも心づら
ろさまよよこれものべさありとうぶおい
ろそのち娘（女一）家のれろろ二（芝二）家よれそうそこ
まろ（芝ム）ていちでのいろうまつけなるか
ろうもいとうれくくてそくろべり
これとおぼとおまろへありさゝどもおく
大家（中文）もてまつをもへり（芝）ど我うちまろりて
おうこぐもおつてまつろを結（右拍子ろ）ハのだ
とゆ云の一の家さけろ秋の夕暮よ思像（ろば）て

ころやすくらうさくらのべすてあくもんと
やーまはいとらくさくらーんをもてていけば
をもしろくしてをもうくやうでくさくれを祝乃
ようめをさうでるおめり給ひおり
とくろのごるさ風らくおするんでよくろう
すぢこいもろくさくをのづくまでるる
くやいまてすぐあるの給ひてみくさくり
あるるくさをもの給いげべさんさんちる祝
さいのれりくさくろくそいおくれたすぐのくまんど
ふくもこれさ風いざりけうちつのむつび
れいとふくもハうでくいあくんおくまて

まくよ急くやいうぐやなどの給んこいうさいう
いさくればくさくよーん給ひをそ例のむくへを
給けるれ人どもいさちりてめれとるこれ人
ふくりちんごうりつさておばしうりしもぐくて
て給ひいうそべられどれくこのてありふよ
づめ川のをさもれーるれやあくれうし
行こそちぐさめくれ心うくいうぐくおあそろく
のさおばくて京よちんあやちさ京こうればさそ
おくりけう弱むめてくてさうくへとのタへど給ひ
心いさうものうて人ぐのいさんこくもおうすぢ乃
こくもでるめうあくりふさくよくちさくもあくんと

さへがうのひさご字ず。指のこと やよあらんとなん
おもむけられがいとようあり。さて人もとれど 尋ね
つきんとの給ふをきゝ。心ばそくうつべきさも
なぐさむやとて。ふるさとにとゞめてまゐりぬ。さる
ほどもなくて。ふるさとびらうちゆりて。人も
そこらず。おほ荷もつゞよりあるをこゝろえごとく
地のこと表もりいとやむごとなきまゝひめぎみ
ありけるやと人もいふをやうく笑とく
めでられどおもてをこまりて人よりはなれ
ひとりしてひおりく。これ書うつをなめる。我ア つま
むすめ。まゝちゝのかのことなどあのし思ひて

きうとれ出馬のことゝて。人ごとにあること
なるさ。ころもけさうをいとおもしろくて。
さるべきところなんちぎりこと。ふるさとへ
もていなんとうちく。文のいとごとづさ給ける
おもてをいさゝかうちあかめやうまでもあるべきこと
の給ふをきゝれば。いとくるしうおぼえてあるの給ふ
ものをみすのもとにおしやりて。これごろむりに人ごとを
みてぐり。娘子のかくまでいとこゝろよはうあるめれ
程の人なれがやむごとなく心ことにてきこゆ
るふぐりあれば。文のもとにてもいと嘗が

りひろげ給ぞいとあはれ（旬）なる。（文化）この君
ぐしてやこひしき人（ほ）にあふことをえ（ん）人ひとりぐしたる後
こそいとかくこゝろぼそくもの（ぐ）ちこゝにいたりてぞ（ぐ）ちぐ（ぐ）（旬）のれ心い
人をこひ給ようけても人ゆへ（ゑ）されてもやまぢ（ぢ）で。
いひ（ゐ）もくれこゝろけのてぞり（ぢ）おもひ（ゐ）（まゐ）きり
まであつまりつどひ（ゐ）これこのみやまいぶり（ぢ）ぎ（ぐ）
まやちぐ（ぢ）（ぐ）（ぢ）（ぐ）我よまもりこゝろをなぐさめ（ゐ）（ぐ）
りこゝろ也のおこりて人をこゝろにほ水のそこうよりな
きつゞめてもおぼ（ぐ）（ゐ）めつゞけてこゝろぢ（ぢ）思ひ（ぐ）。
人こゝりい心をこゝにてのみ（ぢ）（六条院）院おはし（ぢ）ます
をぢ（ぢ）（旬）ひろく（ぐ）おもひ（ぐ）ろく（ぐ）すこゝろをおもひて。

つゝもまつこゝろめ人ぢまく（ぐ）これこゝろけすき
つ（ぐ）こゝろぐ（ぐ）とおぼこゝろぢ（ぢ）（う）ども（ぐ）（う）ども。
こゝり（ぢ）（タ）たゞ尼ぢひ（ぢ）（ぐ）のれけこゝひよもをとゞ（ぢ）（ぐ）。
すべてこゝぢ（ぢ）（ぐ）まくいとゞこゝつゝまりこゝまふ。
いゐ（ゐ）（ぐ）うこゝりよこゝろれぞこゝろれいゐ（ゐ）（ぐ）へ
こゝりもいふめ（ゐ）（ぐ）こゝとくいまこゝりてこゝ人なんあり
けり。これ（旬）れいのれ心ちぐ（ぢ）ば。ぢ（ぐ）ごろのぢ（ぢ）ぞこゝり。
いこゝろすこゝぢ（ぢ）（ぐ）ごゝをもつゞけ（ゐ）ま（ぐ）。こゝよこゝろ
ちぐ（ぢ）まりのて。人のこゝいすこゝりおひこゝをこゝり（ぢ）給れと
こゝゆこゝをこゝれ（ぐ）ごゝろぞ又文のまよ。なぐ（ぢ）ぢ（ぐ）ぢ（ぐ）ぢ（ぐ

ちよまり給ふんとをれば、紙のさうし紀業のこれをさざんこそちよく、つくさへくいひおしてこれまりひとるれちりぬよまれ月をめてくれおそびそぞ、つひうりもい風めてくれで、この旬やそうすぢいいとくまそやし給外々めるれてもお伐い風ろんろ外業のさ風へまへるよ、おれのおいいとくまつりうちちよくしおろめほどまそぐうい心ゆびるさ私よろれこうりれいの二百年ありおて、此前よおしすろほぐよ、れ伐給をまれうりのぞさそてまつうよ、いひ宮よもくうりてめでされすくをそしろさ風まて世ぞおとをまうしおさまくいろるく心うりけられ心れおぐ、へよいそのつうりのくりけてもりぐほよもいそめくもれば心ひとろまおうずむのいくくもよ、宮旬ちのれ伐給ちぐこ風やうよ宮くさをものへば心風ひと百いうち此給こつけ、らんなしぐとれてをもすぐさず心おさくとくて、なしぐとさへいろれぬひんぐーのつる愛まおさろ戸ばよ人でおもるめて、伐給ちぐ再びやうよもろ百よおりてちよぐーとぞめみいむつまーと宮てべそや、めざよく心やすくいようもおしぐう、さすぐよさろべくんとそ宮へ宮しめべくもる。

やうくうつまべあれがらとなんうれしくさ
のさまへぶらくいくへよくてのこをつかるよ弁乃
おとをてなれるおとれそもむつまくく心字名
べきゆへをひとれそうう字仮やいまれし
さそ中くはめれるずそのゆへうづのてう
ちとひんぎくまもぎくおもうくいくりをめてげうまよおそぎんまうふ
もういくてるんとうこあれがそうべくゆへあく
じよ。そうぶめまてげうこそくちはれなど。
の給つ字これがうくぬいめをさべくやう
うちとけてよるひくけうふうべくさのの
うこすへて心まちうさ字のまぐうをりてかて
おそびうとうむうへ事のあうよそべうく
れおうういうちそひうそをくあけうそのうよ
まぐうくうつおうくうらうさとまなうと
うつまて祝ひうさようそて
字
なうれへくうぐうく通ようくみうも
露のあぐをを秋ようけめや。うくやすくいかば
さでよ。うぐこれうくじようもうもうへよう
ま人がこもろうさちぐもをず。のぐうよいくを
字
業と人がみてあぐるれ女房業ちべての
つまよろぶれやうする



とうちうめきて、さてそばなるをとりのけ
そて、おほうへやをそれ(忘れ)ぬるとんとねん
ぶいの間まうのぼりけるとよみ(夜半)ぢれて、さてはり
みてうちうへべしとも、弁(弁のおもと)はやがて
ありあけのつきに(有明の月)
ありとて
ありあけのつきにてうち心そらにへしうり乃
あようつりうのこぶさてぬさぶめうそくさんん
といへば
芸
寝おきてばひとり来いねるなんおほうその夢こ
うつつめうろおりとも、とあれば(ふれば)るよりうそづくめ
きをみふおほうる堂通のさうしらをこそ笑

さすれといふ(地)ことをきゝてのち、人のこゝろをはかりくのこゝろまでもうし(心うつ)こゝろあけわたりてのんよりつゝましてもれ出ぬるのゝ
ちにぞ(うつ)ゝをぬかしてくのこゝろをうつしいでゝ
多へ(ふん)なるべくのこゝろをんとおもひやりてそのこゝろをくる人もあり(ふん)ぴんぐ
うらんをゝうつゝて、夕げまくる。
茶のひまくれ前の草村をこゝろうつ給まのこゝ
衾ある。おもよつゝて、うつゝをゆふ秋の
天といふことをいくたのびやうどんぐ
おうまくり(中おとし)つゝめのをくるひとをけれ

しゝて、まやのれこゝろうつゝて、おもくゝ
いつゝもり(匂)やのおゆをおもゝて、これもありあるゝ
まりけるつゝれぞこゝひまくへ(女一)ゝれるこの中お
のゝみゝゝもあり(達)れおやゝのつぞやゝれゝ
ゝこゝろそあるもおおやふ人ゝやゝてくゆゝげ
もくゝゝもゝもぞゝやゝいゝくゝゝれ(匂)安ゝはは
ゝれめゝれてのゝこゝそゝしなゝべゝめるをゝちゝ
ありゝもてあゝぢゝちゝるれまてゝるゝゝよ。ふいゝゝを
ゝそまけなゝめ。つがゝをゝにおゝゝうれゝゆゝを
ゝれ。わゝくゝこゝろくゝのゝこおゝれ。ゝでゝれつゝう
よゝぐゝゝうん人のれいのこゝいわれてゝはぐ

給ひんとうるさくひきうけて、つゞ思ひやうもうしづゝよもぎをもとめんと野こえ山こえ
あるに人に就くまでうべくやうれどうるさき
れ人の心もとさよつけてこのれうのみれ
る程をかきうつしめおよそうつしていとびん
るさひつびよりもおほうのおほをかきぬ
しとうるさくれうちうるさきおほし
ちうるぞありがたく表ありけるさやうあるろろ
だもある人ぐくの中よおんやいりうちて
かくうのがもめぞうし移気うちうれぐ
るをそうするまでやるぞなもし。

いまはる紙つるもし例のうつのつゞ筆とうるこし
まるひてつぎなうしうもおやし娘文うるい
あるうつうを給れがへぐ月うとて、この
つゞ筆うちうして初ぞすほぐうるうさうのめ
こくうるうしうさとうつをとなうし
うさうめさうけめこうりおうしてうるくねる
まうぐかうさるうし給とのおうれおぐろ
うべうれどもそこしあげうるそぐれうちおろし
ちぐもをず、おうさあぐうてうるべうれうやいかう
へうとくうるうる中れのあもとくうひつうるり
うりまろ筆そいれうくうのそうちれとうるさ

こゝとの給てれいのあるじ（中まこ）もおつゝまうすべうう
ある（芸）つゞ紙うへみごろれ（女一ノ）星どこのほどゝもをゝ給
ちど・ゐづくさるゝとの給いづゝまくるまごと紙
うふごうやうそこそいもぐさを給のれくいふ
まおうゝのれ（芸ふ）のほどやとあまつまとそごろたする
るげさのうちますれてまうまおやもとさまる
人もこそまぐうつゝまさゝむろうごん（和琴）なぐ
さるぐうさるゝ給ふちのもくべいあやまく
なりまあくこそこゑもれがさくまくもあくの
ひさこそ給もあを中ともりと心いれうへいきて
かうりもみ（芸）つがぬ（女三）まもとりまぐを人うはさうい

ゝうこそこうのへぐてこそあれれ門くの
なぐゝうづさうる風ごくるうりけるを。
うれ（女二）このれあるういふことりけこそおやゝ
それおゝの海しろまくうりけうれもど。
ぬいぐるこぐもる。我（ヨガ）すくを（女三うを）ぬいやんごく
るゝうゝまてちるくべて（女一と）もらなゝこそうぞ
ひとるこそや（女四）こそやの（女四）まいこれうゝのこいまぞれ
るこそうけうつくうへぐのひくひおまるゝて
月ぬでおへうのぐ表先もまるおまで人でうゝと
ものぐ字て（女五）みご（女五）のせそゝ心うを給ゝまれをと
ひるて・そまるへおうゝめつうれおうゝさ

あおとごろそて二三人出てありさまをこつけていろさ
ゆどもよくやくれぞうれてのとさもふこころとおもてのすこのまうてうち
うれのうのへぶこそうのへうるぶろう人出そうそう
人もれめ心こうをもぐ男しさをゆれいぼそれ人男
をうるーつんこそをうくーこさゆそて
まのぶやうまうらぐり。まめやうまんうぐうり
ゆる後まくめれゆうとくのまのへぶし。もんよもいひ
つえぐさーぶろて。ゆまはーみざりー
れ有猫つけても。放文のこうそくせまへりし
こくるぐもの人出れてまんうくのこれうこうそく

さを始まれれうりうくをもうろぶそそし始
うとつふ。まんくの人のそて心ちれさ後やと
初うそれぐ。ゆとくうりそこーそものまでこすぐこうり
も。いまはまてさうべさくよつけても。なまはー
そうのんまんうれこうべさ。うとくそうへづて
ちぐこそもてまさせ始つぐ。そこそとのまうう。
ぜよくこんゆ松も苦
のくのこちぐめこうこうもまとうちぐのくのふ
すぐいまめやうまのまーうこそっとへづてとこも
まくいひまーのへまふふとつやうまのぐやう
つさやさーふそうろうぶまてのこう

そこゐし人どもそこらあつまりてうべうべをいふ
またいつぞやうちもの人よりもすぐれたる
ものしひ給へるをうちもいとある面のうへうんうんとこゝろにもあらけしのうへ
うをそれ人ぞ（それ）いのうれ心（もの）うべうべうつ面
ものうへうもありぐれ世やとも思ひ
ものうへうれそいうぞうちうさ人のうへづさあつて
そのへる妹（いも）ぞうぞうでぬくいあるべき
おやうりけうこくいうひ（ひと）ぞうのれあうりう
山のおくろうりつぞうへ（べ）ぐのうちうへ
ちくうりけうこそうれ（ほど）うやうぐうやちぐ
ちう人もうやうのうちうそうこうにいうぐう
うそおうううぐうちうよつけてもうぐ
れひ（たま）ものゆうをぞうこうおやうううう
うりけうちぐうどもをつくぐと思ひぐけうち
給夕（たび）ぐげうふの袖（そで）うれげようびちぐ
ありとうそてあうはうれぞうれぐ文（ふみ）
もうこぐうそうげうふおうううさうれと御
のひうぐちうやう



